

鹿児島大学附属図書館・ミュージアム知覧共同企画展
「木村探元と武家のたしなみ」

講演会「江戸狩野と木村探元」

2015年1月10日 於ミュージアム知覧
鹿児島大学 下原美保

- 1 はじめに
- 2 江戸狩野入門
 - 1) 江戸時代の御用絵師
 - 2) 狩野探幽への私淑
 - ①古画修学
 - ②近世における雪舟評価の高まりー薩摩の雪舟系水墨画の系譜との関連においてー
- 3 江戸狩野の枠を越えてー木村探元筆「竹林七賢人図」ー
- 4 探元の評価

1 はじめに

木村探元（延宝7年～明和4年 1679-1767）

・江戸中期の薩摩藩の御用絵師

名 守広・時貞 通称 村右衛門 別号 大貳・三暁庵

・画論書『三暁庵談話』を著す ・『白鷺集』（知覧領主島津久峰による木村探元の口述筆記）

略年譜

和暦	西暦	事蹟
延宝7年	1679	7月18日 現 鹿児島市平之町に誕生 父 木村時喜 母 市来仁左衛門の娘
元禄4年	1691	薩摩の絵師小浜常慶（生没年不詳 狩野常信〔木挽町狩野〕の弟子）に絵を学ぶ
元禄16年	1703	江戸へ赴き、狩野探信（鍛冶橋狩野）の門人となる
宝永2年	1705	江戸より鹿児島へ帰郷
宝永4年	1707	鹿児島城本丸の造営に際し、御対面所上段格天井、中段孝行の間等の画を描く
享保19年	1734	9月 近衛家久に招かれ、島津吉貴の命により、京都へ赴く 11月 勅許により法橋位を授かる
享保20年	1735	2月 禁裏へ衝立を献上 3月 禁裏へ衝立と屏風を献上 （同）近衛家久より、大貳の呼び名を賜る
明和4年	1767	2月2日 死去 浄徳堂法浄菴主と法諡

代表作

「自画像（徐葆光題賛）」（鹿児島市立美術館寄託）・「雲龍図」（尚古集成館）・

「鍾馗図」（鹿児島県歴史資料センター黎明館）・「富嶽雲烟図」（鹿児島市立美術館）ほか

2 江戸狩野入門

1) 江戸時代の御用絵師

狩野探幽 (慶長7年～延宝2年 1602-1674)

- ・江戸初期の幕府の御用絵師
- ・鍛冶橋門外に屋敷を拝領し、鍛冶橋狩野家を興す
- ・江戸城・名古屋城・二条城の障壁画など徳川将軍家の重要な画事に携わる

作風の特徴

*余白を活かした瀟洒端麗な作風

江戸画壇における役割

*作画体制・作風ともに江戸狩野の基盤を築いた

代表作

二条城障壁画・名古屋城障壁画・「桐鳳凰図屏風」(サントリー美術館)・

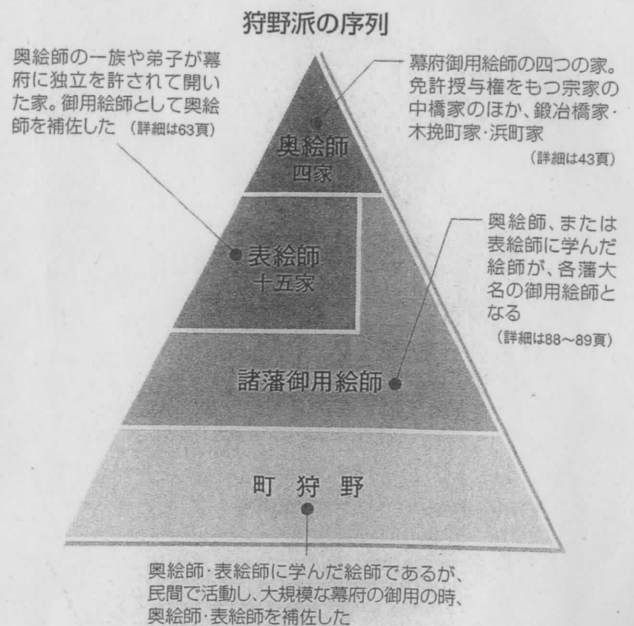
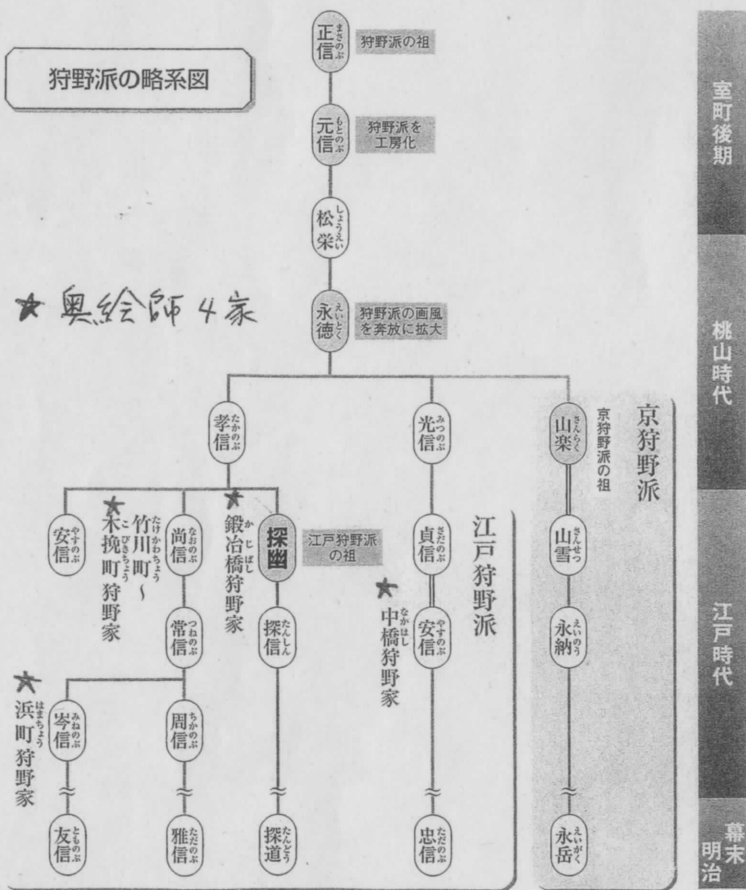
「富士山図」(静岡県立美術館)・「東照宮縁起絵巻」(日光東照宮)ほか

狩野探信 (承応2年～享保3年 1653-1718)

- ・江戸中期の幕府の御用絵師
- ・狩野探幽の長男
- ・鍛冶橋狩野家第2代

狩野常信 (寛永13年～正徳3年 1636-1713)

- ・江戸前期の幕府の御用絵師
- ・父は狩野尚信
- ・木挽町狩野家第2代



御用絵師の仕事ー探幽の場合ー

- 1) 幕府の命で行う城郭建築に伴う障壁画制作…江戸城・名古屋城・京都御所
- 2) 引移り御用（輿入れ道具としての絵画制作）…源氏・伊勢物語図等（屏風・画帖等）
- 3) 記録係としてのスケッチ（行事・風景等の写生図）…江戸から京都までの写生図巻等
- 4) 古画摸写及び鑑定…探幽縮図 等

* 1) 2) は共同作業

狩野派の絵画教育ー幕末の木挽町画所^{えどまち}の場合ー

画塾に入門するまで（7・8歳）

- ・「三巻物」^{ようせんいんこれのぶ}（養川院惟信が初等教育のために描いた花鳥・山水・人物など 36 枚を 3 巻に仕立てたもの）

画塾教育（10～20 年）

- ・「御かし画本」の摸写（狩野常信が描いた山水人物 60 枚を 5 巻に仕立てたもの）

↓

- ・常信の花鳥 12 枚の摸写

↓

- ・「一枚物」（常信の福祿寿、雪舟の一幅物、元信、永徳の名画、さらには李龍眠、顔輝、夏珪、馬遠などの中国の名画も含まれる）

↓

- ・探幽の^{けんじょうのしょうじ}賢聖障子（京都御所の障子で最高位の画家が描く）

粉本主義批判

* 手本（粉本）を基盤として制作することへの批判

2) 狩野探幽への私淑

①古画修学

『白鷺洲』（知覧領主島津久峰による木村探元の口述筆記）

又々申候は御手前師匠は探信にて候哉と申候に、成程探信にて候と被申候、探信は余り畫は不勝にては無之哉と申候に、成程下手にて候得共（中略）、夫に付又申候は、自分師匠探信親探幽にて候に静隠は孫弟子にて候

探幽縮図（京都国立博物館・大倉集古館ほか）

日本や中国の古今の名画を縮図として摸写したもの

絵師の位^{そうごう}（僧綱）

・本来は僧官の職

・法橋→法眼→法印

②近世における雪舟評価の高まりー薩摩の雪舟系水墨画の系譜との関連においてー

雪舟（応永 27 年～永正^{えいしょう} 3 年 1420-1506）

・室町後期の画僧

代表作

「山水長巻」（毛利博物館）、「破墨山水図」（東京国立博物館）、「天橋立図」（京都国立博物館）ほか

秋月等観

・室町後期の薩摩の画僧

・雪舟から「自画像」（模本・藤田美術館）を与えられる

代表作

「西湖図」（石川県立美術館）等

3 江戸狩野の枠を越えてー木村探元筆「竹林七賢人図」（薩摩伝承館）ー

竹林七賢人

：中国の魏の時代末期に、俗人を避けて竹林に会し、清談に世事を忘れた七人の隠士

阮籍^{げんせき}（210-263）・嵇康^{けいこう}（224-262）・山濤^{さんとう}（205-283）・向秀^{こうしゅう}（227?-272）・劉伶^{りゅうれい}（221?-300?）・

王戎^{おうじゅう}（234-305）・阮咸^{げんかん}（生没年不詳）を指す

近世の狩野派における竹林七賢人図の系譜

狩野探幽（六曲一双 静岡県立美術館・三幅対 福岡市美術館）

探幽以降の狩野派の絵師

狩野栄川院古信（三幅対 ボストン美術館）

狩野探信守道筆（三幅対 ボストン美術館） 等

→類型化

cf* 狩野山雪（襖四面 妙心寺天球院） 山雪（1590-1651 京狩野の絵師）

木村探元筆「竹林七賢人図」（薩摩伝承館）

画面中央より離れた2人の人物 → 山濤と王戎か…意がはりして竹林を去る（『後素集』）

右から2番目の琴を弾じる人物 → 阮籍もしくは嵇康^{けいこう}か…阮籍は弾琴、嵇康は琴の上手（『後素集』）

右から3番目の杯を持つ人物 → 劉伶^{りゅうれい}か…愛酒（『後素集』）

酒を囲む他の賢人に背を向ける人物 → 向秀^{こうしゅう}か…飲酒、放埒行為がない（『世説新語』）

『後素集』（狩野一溪〔1599-1662〕 元和9年・1623の自跋有り 中国の画論・画題の紹介）

『世説新語』（中国南北朝の宋の劉義慶が編纂した、後漢末から東晋までの著名人の逸話を集めた小説集）

4 木村探元の評価

『古画備考』四二 狩野門人譜（朝岡興禎による画人伝 嘉永3年〔1850〕起筆）

大貳探元

敍法橋薩州人、著三暎庵談話三巻、

畫を探幽に學ぶ、其畫洒落にして高趣あり、

* 自律的な修学・作画態度が探元の作品を支える

【参考書籍】

- 『薩摩の絵師たち』（永田雄次郎・山西健夫 春苑堂出版 平成 10 年 2 月）
 『木村探元－近世薩摩画壇の隆盛－』展図録（鹿児島市立美術館 昭和 62 年 10 月）
 『江戸の絵師 暮らしと稼ぎ』（安村敏信 小学館 2008 年 9 月）
 『もっと知りたい狩野派 探幽と江戸狩野派』（安村敏信 東京美術 2006 年 12 月）
 『別冊太陽 狩野派決定版』（山下裕二・安村敏信・山本英男・山下善也 平凡社 2004 年 9 月）
 『日本美術を学ぶ人のために』（中村興二・岸文和 世界思想社 2001 年 3 月）

【参考論文】

山下善也「狩野探幽筆<竹林七賢人・香山九老図>屏風 その革新性」

（『静岡県立美術館紀要』第六号 静岡県立美術館 昭和六三年三月）

北野良枝「妙心寺塔頭天球院上間一の間障壁畫に関する一考察・狩野一溪著『後素集』との関連性について」（『國華』一二五三号 平成一二年三月）

ほか